

# 大阪府交渉

1月23日開催 79人参加



厳しい福祉現場の実態を訴える組合員 (2013.1.23)

## 手取り年120万円の非正規職員 これで専門性は保てるのか

大阪府交渉を1月23日におこない、分会・班の参加者、執行委員を合わせ、79人が参加しました。全体項目・保育・障害・高齢・児童養護・救護分野の要望に基づき折衝項目をしばって交渉しました。組合員からは切実な実態、改善を求める声が出されました。

国への福祉予算要望にとどまる不十分な回答

大阪府本部では人材確保のための大阪府独自の施策を大阪府に要望しましたが、大阪府担当課の主な回答は府の財政状況から府独自の処遇改善策を講じることが困難であり、国に予算の確保・報酬単価アップを要望して

いきたい、という不十分な回答でした。

働き続けられる職場へ切実な声

現場からは「福祉現場を支える非正規職員は手取り120万円。専門性を高めながらやりがいを持ち働くにはこの年収でふさわしいと思いますか」などをはじめ切実な声が多く出され、大阪府の職員はメモを取りながらの交渉となりました。また、大阪府が国等にあ

げている福祉拡充の要望は、ホームページ上でアップして府民に周知することも要望しました。

国の補正予算へ府として要求

保育・障害・高齢・児童養護・救護の各分野交渉でも切実な要求が出されました。

このわけ、保育士の賃上げにつながる国の補正予算における保育士等処遇改善臨時特例事業については、「平成25年の4月から実施できるように予算を(国に)要求していきます」との回答があり、具体化に向けた運動が必要だ。また、各課には引き続きの懇談を申し入れており、懇談の実現が課題です。

公的福祉拡充・人材確保をめざす運動を、引き続きすすめていきます。

大阪府労働組合 福祉教育労働組合

「ともしび」 2013年3月号